

『生涯学習』とは「生まれてから一生を終るまでに学習するあらゆるものをいう。」と他市で推進委員を務める友人の言葉です。

一般的には学校教育を除いた学習と、とらえられがちですが、広い意味では青年期までの学校教育も入りましょう。

生涯学習のとらえ方は、毎日のマスコミからの見聞、また、意図してとり入れる見聞(講演を聞く、見学をするなど)がひとつであると思います。また生業とする職業が芸術家や職人と呼ばれる人は、生涯をかけて学習に徹するのでしょうか。いちばん身近で万人にとり入れられているものに、「趣味」と呼ばれるものがあります。「趣味」は即生涯学習ではないでしょうか。

趣味は、自分がやってみたいという本能に基づき行うもので、行うことに満足感を覚え、自ずと「高み」の道へ進んでいくものです。その中での苦労や達成の喜びはこの上なく、自己の修養の道ともいえましよう。

永い人生にわたって取り組む中では、時間の獲得の苦心があります。殊に女性には趣味の時間が阻まれます。昔、八十二歳の師が「子どもの病気の看病のときも、頭の中はピアノのことで一杯でした。」と懐古されたことを思い出します。自分が好きなことを究める時間と場が得られる幸せ、それを与えてくれる環境への感謝の気持ちほど、心にしみるものはありません。

生涯学習は、とても個人的なものです。学習していく上で、他人の介入や援助を受けることがあります。九年前、朝日歌壇誌で「戦後五十年を記念して」の企画があり、拙い一首が佳作に入りました。故斎藤史先生の「皆さんは戦後を生き抜き、後世に伝えるべき言葉をよく遺してください。」との講評を読んだとき、喜びと深い感銘を受けました。個人の趣味が少しでも他人さまの役に立てるならばどんなに幸いのことでしょう。

都留市発行のガイドブックの表紙に「プラスチック」暮らしにもう一つの「幸せ」のタイトルがあります。まことにその通りの指針と思います。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習



『わたしの生涯学習』

わたしが生涯スポーツとかかわりをもったのは、今から十八年ほど前、丁度国体が山梨県で開催された昭和六十一年からである。この年に「都留市体育指導委員」の任命を受け、以後十六年間、国体をはじめ第一回全国スポレク祭、全国高校総体、更には全国グラススキー高宮宮杯など数多くの大きなイベントを体験することができた。これらすべてのイベントの式典を担当、全国各地より参加したスポーツの精鋭たちと出会い、語らい、ふれ合うことができた。この時スポーツの素晴らしさを実感すると共に生涯スポーツとの出会いでもあった。

体育指導委員として全国各地で開かれるスポーツ研修会などに参加をし、いろいろな軽スポーツなどを体験、ルールなどを習得した。また「体育指導委員の職責を果たすためにスポーツや運動に焦点を当てながらも、それらの背景となる人々の社会的、文化的価値や欲求について幅広く認識することが大切である」と言われてきた。

都留市では毎年轻スポーツ教室のほか数多くのスポーツ教室が開催されているが、その成果を出すことができたと思う。その中でも心に残っているのが初心者子ども水泳教室である。この教室で全く水に顔をつけられなかった子どもが、四日間の教室で七メートルほど泳げるようになった時の感動。また、スキー教室でもはじめての親子がすべれた時の瞬間、体育指導委員をやっていた良かったと思っ

た。今後わたしの生涯スポーツとして地域スポーツの振興に、また十五年ほど前よりはじめたソフトバレーを週一度、更に週二度のボウリングを楽しんでいきたいと考えている。

